

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(共通Ⅱ)						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30	担当者	棧原弘司	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	大学等で教員	
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらい -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実践(権利擁護活動を含む)について理解させるーのうち、この講義では、「相談援助の理論と方法」Ⅱとともに、主として②及び③について講義をすすめていく。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助アプローチの概要 ー心理社会的アプローチ・機能的アプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	相談援助アプローチの概要 ー問題解決アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	相談援助アプローチの概要 ー課題中心アプローチ・エンパワメントアプローチ・エコロジカルアプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	相談援助アプローチの概要 ー構成主義アプローチ・解決志向アプローチ等の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	相談援助アプローチの概要 ー[演習] 相談援助アプローチの実際の理解と具体的な検討(複数アプローチ使用による検討)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	相談援助の方法 ーケースマネジメント及びケアマネジメントの概要				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	7	相談援助の方法 ーグループ支援の基本的性格、機能・構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	相談援助の方法 ーグループ支援の実践原則、展開過程				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	相談援助の方法 ー家族支援の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	相談援助の方法 ー家族支援の実際の理解と具体的(多問題家族)事例の検討				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	相談援助の方法 ーネットワーキングの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	相談援助の方法 ー地域支援(コミュニティケア)の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	相談援助の方法 ーソーシャルアクションの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	相談援助の方法 ーソーシャルアクションの実際の理解と具体的(障害者通所施設設立運動)事例の検討				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	後期(第1回～第14回)講義内容総括				教科書の該当範囲の復習をしておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを1回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。 * 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。						

科目名	社会保障Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		宮井浩志		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理科 2年										
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、実践に必要な諸制度の概要及び活用法を学んでいく。										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○		○		各制度の概要について説明することができる					
		○		○		支給要件や留意事項を説明することができる					
テキスト・教材 参考図書	社会保障入門第3版（有斐閣出版社）										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	医療保険制度の理解-保険の種類や医療制度の仕組み					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	6	年金保険制度の理解-老齢年金					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	7	年金保険制度の理解-障害年金					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	8	年金保険制度の理解-遺族年金					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	13	雇用保険制度の理解-概要					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	14	雇用保険制度の理解-諸制度					テキストの該当部分を事前に読んでおく				
	15	全体のまとめ									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験			◎							70%
	発言・質問・学習姿勢							◎			30%
履修上の注意											

科目名	児童・家庭福祉						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	松澤 秀樹	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務	
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	児童の特性に着目しつつ、児童家庭を取り巻く諸問題や課題、関連する社会福祉制度、関係機関、施設や専門職の役割について学んでいく						
授業形式	講義:		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		現代社会と子ども家庭環境について理解する。	
	○	○		○		子どもと家庭への援助活動の実際について考察できるようになる。	
		○		○		子どもと家庭にかかわる福祉・保健活動を理解する。	
	○	○		○		これからの支援方法について述べるができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	最新社会福祉士養成講座 児童家庭福祉						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	はじめに : ソーシャルワークと子ども家庭福祉				テキストの該当ページを読んでおく	
	2	1) 1～2 子どもの家庭福祉の理念と原理				テキストの該当ページを読んでおく	
	3	1) 3～4 子どもと家庭 権利擁護と福祉の発展				テキストの該当ページを読んでおく	
	4	2) 1～2現代社会と子ども・家庭とニーズ				テキストの該当ページを読んでおく	
	5	3) 子どもと家庭福祉の法制度①				テキストの該当ページを読んでおく	
	6	3) 子どもと家庭福祉の法制度②				テキストの該当ページを読んでおく	
	7	3) 子どもと家庭福祉の法制度③				テキストの該当ページを読んでおく	
	8	3) 子どもと家庭福祉の法制度④				テキストの該当ページを読んでおく	
	9	4) 1～2 子どもの貧困防止／母子保健				テキストの該当ページを読んでおく	
	10	4) 3 障害のある子どもと家族への支援				テキストの該当ページを読んでおく	
	11	4) 4～5 児童健全と保育				テキストの該当ページを読んでおく	
	12	4) 6～7 地域子育て支援とひとり親家庭の福祉				テキストの該当ページを読んでおく	
	13	4) 8～9 社会的養護／非行児童・情緒障害児				テキストの該当ページを読んでおく	
	14	4) 10～11 児童虐待対策／女性福祉とDV対応				テキストの該当ページを読んでおく	
	15	5) 1～3 子ども家庭福祉援助活動				テキストの該当ページを読んでおく	
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験	○	○				90%
	授業態度	○			○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神医学と精神医療Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	東中園 聡	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	精神科病院にて医師として勤務	
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神疾患の特徴やその対処方法、現代における医療機関及び在宅で診療の特徴について症例をもとに学ぶ。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		精神疾患における薬物療法について理解することができる	
	○			○		精神疾患の構造、外来及び在宅医療について理解することができる	
	○			○		精神科救急医療システムとその対応について理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	精神医学と精神医療 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	社会構造の変化と新しい健康観				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	ライフサイクルと精神の健康				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	ストレスと精神の健康				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	精神の健康に関する心的態度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	現代日本の家族形態と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	社会的ひきこもりをめぐる精神保健				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	アルコール問題に対する対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	薬物依存対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	うつ病と自殺予防対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	性同一性障害と精神保健				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	ホームレス、ニートや貧困と精神保健				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	認知症高齢者に対する対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	保健師等の役割と連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	日本が目指すべき精神保健医療とは？				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	出席状況				◎		20%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない						

科目名	現代の精神保健の課題と支援 II										
科目名(英)	Challenges and support of mental health										
単位数	2		時間数		15		担当者		宗岡 誠		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		精神科勤務医 35年		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年										
授業概要	21世紀に入り、生活環境の変化が生じてきており、心身共に健康を維持し、増進していくかという課題がある。メンタルヘルスの重要性は、現在、誰でもがしることとなり、うつ病と自殺、ストレス関連の心身症、アルコール依存症、薬物依存症、少子高齢化や、認知症などに対する、国の施策がそれを象徴している。また、児童虐待や、いじめ、犯罪被害者の心の傷やその支援者に生じるストレスへの援助、セクシャル・マイノリティー(LGBT)への理解や支援など、様々な課題がある。伝統や習慣、価値観の違いなど、地域や個人で様々な変化があり、そのことによるストレスや課題も生じている。テキストには、従来の精神疾患名(ICD-10)、DSM-5の疾患名も付記されている。テキストを熟読し、精神保健的な視点と最新の情報と知識をみにつける。										
授業形式	講義 ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					勤労者のメンタルヘルスについて理解する					
		○				精神保健福祉士の役割を理解する					
		○				現代社会の精神保健の課題と支援を理解する					
		○				地域精神保健活動の諸活動を理解する					
				○		諸外国の精神保健の現状を理解し、総合的支援を理解する					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。DVD、PPTを使用				
	2	6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	3	6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト				
	4	7章 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	5	7章 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト				
	6	8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	7	8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	8	8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト				
	9	9章 地域精神保健活動に関する諸活動					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	10	9章 地域精神保健活動に関する諸活動					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	11	9章 地域精神保健活動に関する諸活動					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト				
	12	10章 諸外国の精神保健活動の現状及び対策					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	13	10章 諸外国の精神保健活動の現状及び対策					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト				
	14	総合的精神保健の重要性とその課題					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 グループワーク				
15	総合的精神保健の重要性とその課題					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 グループワーク					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	◎		◎							90%
	小テスト	◎		◎							5%
	グループワーク	◎		◎				◎			5%
履修上の注意	講義中の私語は禁忌										

科目名	交流ゼミⅡ-②							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	中山かおり	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー	
対象学科・学年	福祉心理学科2年							
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。		
					○	物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。		
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。		
					○	グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。		
					○	人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	2	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	3	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	4	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	5	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	6	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	7	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	8	グループ内でのレクリエーション					グループ内で活動内容を協議しておく。	
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	出席状況				○		100%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。							

科目名	ピアヘルパー						
科目名(英)							
単位数	2		時間数	15		担当者	富沢理恵
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	キャリアコンサルタント・心理カウンセラーとしてカウンセリング業務に従事
対象学科・学年	福祉心理学科2年生						
授業概要	ここ十数年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつある。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような時代背景とともに、「心理カウンセリング」の必要性は高まってきているが近年、何か問題が起こってから専門家に援助を求めるより、問題が起こらないように普段から「仲間同士」で援助しあうことのほうが効果的であるという考えが浸透してきている。「私は助けるひと、あなたは助けられひと」といったプロ意識のカウンセリングではなく、「助けたり、助けられたり」のカウンセリングである「ピアヘルパー」を「仲間同士の助け合い」の意義を特定領域(「学業領域」「進路領域」「友人領域」「関係修復領域」「心理領域」)で体験し、理解する。						
授業形式	講義　○		演習：　△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○　その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点が理解できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「学業領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「進路領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「友人領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「グループ領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「関係修復領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「心理領域」でピアヘルピングを活用できる。	
テキスト・教材 参考図書	ピアヘルパーハンドブック・ピアヘルパーワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章　カウンセリング概論～SGE					
	2	カウンセリングの定義と略史と必要性					
	3	カウンセリングの種類					
	4	ピアヘルピングの関係領域					
	5	ピアヘルピングのプロセス					
	6	第2章　カウンセリングスキル					
	7	ピアヘルピングの言語的技法(1)～(2)					
	8	ピアヘルピングの非言語的技法					
	9	対話上の諸問題への対処法					
	10	ヘルピングスキルの上達法					
	11	第3章　青年期の課題とピアヘルパーの留意点					
	12	ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点					
	13	学業領域/進路領域					
	14	友人領域/グループ領域/関係修復領域					
	15	総まとめ					
評価方法	(1)定期(筆記)試験を実施する。(2)授業への参加状況(グループワーク時の発言等)。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80～89点)・B(70～79点)・C(60～69点)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	ワーク・発表・提出物	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	芸術療法										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		工藤 哲也		
実施年度	2022		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として施設・病院勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年生										
授業概要	就職し、作業療法士と仕事をする上で、どんな芸術療法(作業・活動)があり、その芸術療法(作業・活動)の特性を活用する代表的な基本例を理解し、患者様に寄り添える行動が出来るようになる。										
授業形式	講義 ○		演習:		実習:		実技: ○		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○		○		作業療法士等、他医療職とスムーズに、芸術療法を通じた業務連携が出来る、基礎を学ぶ。					
テキスト・教材 参考図書	資料等の配布にて実施										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション・自己紹介(講師/学生)					学生に書いてもらう。自己紹介。				
	2	芸術(手工芸活動)の特性を利用した 治療的な使い方									
	3	芸術(手工芸活動)の治療的な環境(患者と治療者の位置など)の使い方									
	4	実践1・ 紙粘土素材 の治療的な使い方									
	5	紙粘土素材の手工芸 実技演習									
	6	実践2・ 割りばし素材 の治療的な使い方									
	7	割りばし素材の手工芸 実技演習									
	8	実践3・ 折り紙素材 の治療的な使い方									
	9	折り紙素材の手工芸 実技演習									
	10	実践4・ お手軽ネット手芸 の治療的な使い方									
	11	お手軽ネット手工芸 実技演習									
	12	代表的精神等疾患と芸術療法(手工芸活動)の導入例									
	13	補足・運動体操プログラム導入例 (机上以外の活動)									
	14	芸術療法(手工芸活動)まとめ									
	15	今までの講義で学んだ事を踏まえて、将来の夢の記述					学生に書いてもらう。				
評価方法	①レポート ②態度 ③出席 ④作品 にての総合評価。成績評価基準は、S 90点以上・A 80点以上・B 70点以上・C 60点以上・D 59点以下 とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	レポート	◎		◎						40%	
	態度							◎		20%	
	出席							◎		20%	
	作品							◎		20%	
履修上の注意											

科目名	SW演習 I (精神専門 I)						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森田康雅
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	本科目は、ソーシャルワークの知識と技術に関わる他の科目との関連性を踏まえながら、特に精神障がい者に対する援助で求められる能力を養う科目である。そのため、①精神障がい者の生活や生活上の困難について、②精神保健福祉士による具体的な援助場面を想定した実技指導、これらを中心とした演習を個別、集団指導を通して行う。						
授業形式	講義：	○	演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		精神障害者の生活や生活上の困難について理解できる	
		○	○	○		相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に理解できる	
	○	○		○		ソーシャルワーク実践の展開過程に関して理解できる	
テキスト・教材 参考図書	適宜、資料配布						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明					
	2	自己覚知(1)					授業内で提示
	3	自己覚知(2)					授業内で提示
	4	基本的なコミュニケーション技術(1)					授業内で提示
	5	基本的なコミュニケーション技術(2)					授業内で提示
	6	基本的な面接技術(1)					授業内で提示
	7	基本的な面接技術(2)					授業内で提示
	8	グループダイナミクス活用技術					授業内で提示
	9	情報の収集・整理・伝達の技術					授業内で提示
	10	課題の発見・分析・解決の技術					授業内で提示
	11	記録					授業内で提示
	12	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握／地域アセスメント					授業内で提示
	13	地域福祉の計画／ネットワークキング					授業内で提示
	14	社会資源の活用・調整・開発／サービス評価					授業内で提示
	15	総括					授業内で提示
評価方法	レポートを実施する。参加度(欠席・遅刻には厳しく対応。グループワーク等授業への取り組み状況)を重視。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎		50%
	授業態度・授業への参加度		○	○	◎		50%
履修上の注意	精神保健福祉に限らず、社会福祉士指定科目や相談援助演習、相談援助実習での体験など、これまで学んだことの復習をして理解を深めておくこと。						

科目名	SW実習指導(精神専門Ⅰ)						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	森田 康雅
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	精神科病院にて精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	本科目では、精神保健福祉援助実習の意義について理解できるよう、精神障がい者の置かれている現状及びその生活の実態や生活上の困難に関して授業を行う。また、「実習要綱」「実習日誌」等を利用しながら、実習に必要な知識や技術の確認、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題について、学生自身が考えられるよう、集団及び個別指導を通して授業を行っていく。						
授業形式	講義：○		演習：○	実習：△	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。	
	○	○		○		精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解し説明できる。	
	○	○				精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解できる。	
				○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	実習日誌 配布資料 実習生必携「ソーシャルワーク実習ノート」 株式会社みらい						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明					
	2,3	利用者理解					
	4,5	実習を行う施設等に関する基本的理解					授業の中で提示
	6,7	見学実習オリエンテーション					授業の中で提示
	8,9	見学実習					授業の中で提示
	10,11	見学実習振り返り					授業の中で提示
	12,13	実習報告会への参加					授業の中で提示
	14,15	事前学習					実習先について、必要な学習を行う。
	16,17	現場体験学習 実習計画書作成指導					学生調査表、実習計画書など必要書類を作成し、 ☒ 切期限までに提出する
	18,19	現場体験学習					現場体験学習の報告書を作成する。
	20~22	実習必要書類の作成					学生調査表、実習計画書など必要書類を作成し、 ☒ 切期限までに提出する
	23,24	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解					授業の中で提示
	25,26	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解					授業の中で提示
	27,28	事前訪問(実習生、実習担当教員、実習先の指導者との三者協後を踏まえた実習計画の作成)					
	29,30	実習前指導／巡回指導(訪問指導・スーパービジョン)					
評価方法	実習前において個別・集団指導を行う。 欠席・遅刻には厳しく対応し、書類(レポート、宿題、実習書類)の提出期限厳守・授業への取り組み状況を重視し、精神保健福祉援助実習Ⅰの実施の可否を判断する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート・書類	○	◎		◎		50%
	授業態度・授業への参加度				◎		50%
履修上の注意	ソーシャルワーク演習(精神専門Ⅰ)、精神保健福祉制度論と関連して進めていく。次の課題を全て達成しており、実習の準備ができていることが「ソーシャルワーク実習(精神専門Ⅰ)」の条件となる：①見学実習、②3年生の実習報告会への出席、③プレ実習、④プレ実習後指導、⑤個別・集団面談						

科目名	就職実務Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	中山かおり
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	精神科病院にて精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持する事ができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動におけるの報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
				○		自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	「就職」を考える					
	2	就職環境を知ろう①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	3	就職環境を知ろう②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	4	自己分析とキャリアプランニング①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	5	自己分析とキャリアプランニング②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	6	仕事のことを研究しよう①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	7	仕事のことを研究しよう②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	8	仕事のことを研究しよう③					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	9	企業・施設アプローチ①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	10	企業・施設アプローチ②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	11	企業・施設アプローチ③					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	12	就職研修①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	13	就職研修②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	14	就職研修③					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
	15	就職研修④					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと
評価方法	提出物は各期限を設定する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○			◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席率が90%以上でなければ学校求人への応募はできないため、就職活動に影響があることに注意が必要。 出席が2/3に満たない場合は成績評価を行わない。						

科目名	SW実習(精神専門Ⅰ)						
科目名(英)							
単位数	3単位		時間数	120時間		担当者	森田 康雅
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	精神科病院にて精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について実践的に学ぶ。2年次の2月～3月の間に精神科医療機関等では90時間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で120時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義：△		演習：	実習：○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○	○		○		精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
		○		○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
		○		○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉援助実習日誌						
授業計画	授業項目・内容・授業外学修指示						
	1. 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 (1) 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 (2) 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 (3) 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 2. 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 (1) 治療中の患者及びその家族への相談援助 (2) 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 (3) 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 3. 学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 (1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 (2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 (3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成 (4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価 (5) 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 (6) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 (7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 (8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 (9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 4. 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。						
評価方法	実習指導者の評価、実習日誌の記載内容・実習後のレポート提出を含め、総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習日誌・レポート	○	○		◎		40%
	実習	○	○		◎		60%
履修上の注意	「ソーシャルワーク実習指導(精神専門Ⅰ)」における課題を全て達成していることが履修の条件となる。						

科目名	スクールソーシャルワーク演習						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	笠木 順一
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務中
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	前期のスクールソーシャルワーク論の内容より、不登校や児童虐待などいくつかの問題種別ごとにその特徴や対応の概要説明を行う。この授業では現在の学校現場で特に多く見られる児童生徒が抱える問題種別ごとの対応について演習を通しての理解を目指す。						
授業形式	講義: ○		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童生徒が抱える問題種別の特徴について学び、その内容を説明することができる。	
	○					児童生徒が抱える問題種別の対応について学び、その内容を説明することができる。	
		○				種々の社会福祉分野に関連づけて、演習を通し問題解決の手法を理解することができる。	
				○		新聞やニュース等の報道に関心を持ち、授業に関連する社会動向を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房 「よくわかるスクールソーシャルワーク」						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	後期オリエンテーション					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	2	社会教育とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	3	家庭教育とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	特別支援教育とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	不登校とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	6	保護者対応とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7	児童虐待とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	貧困とスクールソーシャルワーク					福岡市HP等で場所の確認をしておくこと
	9	施設見学					福岡市HP等で場所の確認をしておくこと
	10	施設見学					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	問題行動とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	精神疾患とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	児童福祉施設とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	子育て支援とスクールソーシャルワーク					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	後期のまとめ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する (2)定期試験(筆記)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		60%
	小テスト						40%
	宿題・レポート	○	◎		○		
発表・作品							
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門Ⅰ)						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	廣田悦子	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	教員歴:30年	
対象学科・学年	福祉心理学科2年生						
授業概要	指定された教科書を中心に授業を進める。授業中、小グループに分かれて、ミーティングを行い、グループ別に発表の機会を設ける。テーマに応じて参考文献を授業中に指示する。参考資料を配布する。						
授業形式	講義 ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	
	○			○		2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	
	○			○		3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1節、ソーシャルワークの構成要素 2節ソーシャルワークの展開過程				出来るだけ、授業の前に一度教科書を読むことを進める。	
	2	3節、精神保健分野のソーシャルワークの基本視点 4節、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開				"	
	3	1節、援助関係の形成技法				"	
	4	2節、インテーク				"	
	5	3節、アセスメント				"	
	6	4節、面接技術とその応用				"	
	7	5節、グループワーク(集団援助技術)				"	
	8	6節、アウトリーチ				"	
	9	7節、支援の展開(人・環境へのアプローチ)事例分析				"	
	10	8節、支援の展開(ケアマネジメント)				"	
	11	1節、精神障害者家族の課題				"	
	12	2節、家族理解の変遷				"	
	13	3節、家族支援の方法				"	
	14	1節、精神保健福祉分野におけるコミュニティの意義				"	
	15	2節、地域における精神保健福祉の向上				"	
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。(						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	授業中、携帯電話等を触らない。他の授業のレポートをしないこと。						